

9260

戰鬥詳報

自昭和十三年十一月三日
至昭和十四年一月三十一日
修米河以北守備

歩兵第百五十七聯隊第二大隊

河へ

71

河へ

0996

目次

一	戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要	1
二	守備勤務ニ及ホシタル天候氣象及警備地ノ状態	2
三	彼我ノ兵力団体号	3
四	守備及ヒ戰鬪經過ノ概要	4
	(一) 敵情ニ就イテ	4
	(二) 大隊ノ警備状況	6
五	主要ナル戰鬪又ハ掃蕩	8
	(一) 張公疫附近ノ掃蕩	8
	(二) 蘊潭市附近ノ戰鬪	8
	(三) 山下王蘊潭市附近ノ戰鬪	9
六	所見	23
	警備変更ノタメ下クシタル命令	25
	要圖 其ノ一	

(頁)

2260

要圖

其ノ二

其ノ三

其ノ四

其ノ五

第二八師第十零八團第一營命令

附錄
附表

死傷表

鹵獲表

武器彈藥損耗表

參加將校人名表

各隊編成表

3173

0998

一 戦鬪前ニ於ケル彼我ノ形勢ノ概要

昭和十三年十月下旬徳安川渡河戦ニ大捷セル
我カ軍ハ十月三十一日全線拳ケテ追撃ニ移行
シ大隊ハ右追撃隊トナリ敵ヲ急追十一月一日
長驅修水ノ線ニ進出シ敵ヲ修水南岸ニ壓倒セ
リ

2. 大隊ハ當初左小地區隊トナリ右ハ中小地區隊
タル¹⁵¹ニ左ハ左地區隊タル¹⁴⁶ニ連繫シ一部ヲ
河岸ニ配置シ嚴ニ警戒セシムルト共ニ主力ハ
後方ニ集結シ當面ノ敵情地形ヲ偵察スルト共
ニ隨時ノ攻撃ヲ準備ス
3. 敵ハ修水南岸ニ後退スルト共ニ河岸ヲ初メ山
腹部落等ニ堅固ナル陣地ヲ構築シ陣地前到ル

河

處ニ障碍物礮台鐵條網等ヲ設ケ我カ渡河攻撃
 ニ對シ嚴ニ警戒シツ、アリ
 二 守備勤務ニ及ホシタル天候氣象及警備地ノ狀
 態

1 第六中隊ニ於テ偵察セル所ニ依レハ修水ハ目
 下減水甚シク水面巾一五〇—二〇〇米ニシテ
 渡渉點ヲ現出シアリ

2 地形北岸ハ一般ニ平坦地ニシテ水田ナルモ殆
 ント干田ニシテ歩兵ノ行動ハ容易ナリ

南岸ニハ同安嶺磨盤嶺梅姑巷等ヲ初メ巍岷夕
 ル山岳巖存ス

3 道路ハ一般ニ不良ニシテ田圃内ノ畦道ヲ以テ
 主要ナル交通路トス僅カニ虬津市—白楡街間
 ニハ巾約八米ニテ舗石ル公路了ルモ到ル處破壞
 セラレアリテ使用ニ堪ヘス

4 修水北岸ニハ部活無在スルモ殆ント兵火ニ遭
 々其ノ大半ハ焼却セラレテ宿營上多大ノ
 支障ヲ來タセリ

5 天候氣象

十二月中旬ニ於テ數日間ニ亘リ降雨ヲ見タル
 ノミ他ハ殆ント快晴ニシテ北風連日相當激シ
 ク寒氣モ相當ナリ

三 彼我ノ兵力團體號
 一 我軍

龍小地區隊長市川中佐ノ指揮スル第二大
 隊

敵軍

數次ニ亘ル敵ノ出撃ニ對スル反襲戰鬥ニ於テ
 收メタル戰果ヨリ判断スルニ當地區正面ノ敵

四

第百十八師主力及第百四十師ノ一部ナルモ、如シ

敵情ニ就イテ

抑、修水ハ南昌防衛ノ最前線ノ險要ニシテ敵

ハ此處ニ約半歳ノ日子ヲ費シ堅固ナル陣地ヲ

構築シアリ其ノ兵力四十二ヶ師三十八萬ト稱

セラル

修水ヲ挾ンテ對陣狀況トナルト共ニ敵ハ益々

陣地ノ増強ニ專念シ直接河岸ハ勿論後方山地

一帯ニ陣地ヲ構築シ更ニ水中ニハ機雷ヲ敷設

シ鐵條網ヲ構築スルト共ニ我カ出撃ヲ極度ニ

怖レ晝夜ノ別ナク小銃輕機重機等ヲ濫射シア

リ十二月中旬ニ到ルヤ益々活潑トナリ一日數々

萬發ニ達スルコト稀ナラス
 敵ノ砲兵ハ王庄(蓋譚市東南方約三將)焦冲市陳
 庄及涂家壠附近ニ在ルモノ、如ク其ノ數五
 六門ナルモノ、如シ當初主トシテ洋鼓江附近
 ニ對シ一日十數發ノ射撃ヲ實施シアリシカ其
 ノ後遂次其ノ數ヲ增加シ十二月初旬ニ於テハ
 洋鼓江蓋譚山下王大境戴附近ニ對シ射撃ス
 ルニ到リ其數一日百發ヲ越スコト稀ナラス又
 敵迫撃砲ハ磨盤嶺蓋譚市東南方(周村)張公渡對
 岸梅姑巷附近ニ在リテ蓋譚市張公渡附近ノ我
 カ第一線ヲ射撃ス然レ共我カ機敏ナル對策處
 置ニ依リ未タ我ニ損害ナシ
 又敵ノ小乍候ハ毎夜ノ如ク夜暗ヲ利用シ渡河
 シ來タルモ常ニ我カ勇敢ナル反撃ニヨリ撃退

5

河 178

1003

セラレアリ

敵國記念日等ノ前後ニハ必ス一部夜襲シ來タル状態ニテ我カ軍ハ其ノ前後ヲ特ニ警戒シ敵ノ出撃ニ對シテハ常ニ機先ヲ制シ之ヲ粉碎セ

洋鼓江山下王附近ニ於ケル敵陣地ノ情况別致附圖其ノ一ノ如シ

大隊ノ警備状況

十一月一日敵ヲ急追修水河畔ニ進出セル大隊ハ右追撃隊命令ニ基キ左小地區隊トナリ蓋譚市ヨリ山下王ヲ經テ洋鼓江ニ亘リ婉々里餘ニ及フ河岸警備ヲ担任シ河岸要點ニ分哨ヲ配置シ直接警備ニ任セシムルト共ニ第一線中隊ヲ山下王ニ大隊主力ヲ大境戴附近ニ集結シ隨時

攻撃ヲ準備シツ、警備ノ期ス
 2. 地区隊ハ河岸陣地ノ増強ヲ實施シ連日豫備隊
 ヲ川作業員ヲ増援シ鐵條網及掩蓋壕ヲ構築シ
 以テ河岸陣地ノ増強ヲ為スト共ニ各陣地ニ獨
 立性ヲ有スル支撐點ヲ構築ス
 主力ハ銳意戦力ノ恢復ニ努ムルト共ニ補充員
 ニ對シテハ過去ニ於ケル戦斗ノ体験ニ基キ教
 育ヲ實施シ次期作戦ヲ準備ス
 4. 河岸警備隊ハ連日減水ニ伴フ河川ノ状況及敵
 情ヲ偵察ヲ實施シ特ニ十二月二十六、七日夜
 暗ヲ利用シ第六中隊ニ於テ鈴木少尉以下五組
 ノ作候ハ勇敢ニ修水ヲ渡河シ蘆譚市山下王洋
 鼓江附近河川ノ状況ヲ偵察ス
 其ノ狀況別紙要圖第二ノ如シ

7

河 680

1005

5 警備 配置 変更 命令 別紙 類 頁 頁 如シ

6 十一月十一日ニ於ケル 小地区 隊ノ 警戒 配備

要圖 別紙 第三ノ 如シ

五 主要ナル 戦斗 又ハ 掃蕩

張公 渡附近ノ 掃蕩

第五 中隊 中村 中尉ノ 指揮 スル 掃蕩 (ニ 分隊) ハ 十

一月 五日 一四、〇口 頃 張公 渡附近ヲ 掃蕩シ 敵

敗 残兵 十数 名ヲ 刺殺セリ 次イテ 西北方ヨリ 敵

兵ニ 三十名 逆襲シ 來リシモ 之ニ 大打撃ヲ 與ヘ

撃退セリ 敵ハ 第五十一師 十リ

(三) 蓋譚市 附近ノ 戦斗

十一月 十一日 一〇、三〇口 頃 敵約 五十名 ハ 突如

トシテ 西南方ヨリ 蓋譚市 分哨ニ 對シ 包圍 攻撃

シ 來タレリ 當時 分哨ニ 八 高橋 軍曹 以下 十二名

警戒シアリシカ一同直々非常配備ヲ完整
 シ沈著克敵ヲ至近巨砲ニ引着ケ之ニ急襲的
 猛射ヲ浴セ敵ニ大打撃ヲ與ヘ以テ之ヲ潰走
 セシタリ
 本戦斗ニ於テハ遺棄死体等發見シ得サリシ
 モ附近ノ情况ヨリシテ相當ノ大打撃ヲ與ヘ
 タルモノト判断ス
 (三)山下王蘆譚市附近ノ戦斗 (至一月二日)
 敵戦斗前ノ情况
 (一)修水南岸ニ擊退セラレタル敵ハ其ノ後河岸
 ニ強固ナル陣地ヲ構築シ之ニ配兵シ嚴ニ警
 戒シアリシカ十二月下旬ヨリ其ノ行動漸
 ヲ積極的トナリ大隊ハ一層至嚴ナル警戒ヲ
 續行ス

(四) 九小地區隊タル大隊ハ第六中隊(MG)ヲ屬スヲ
 以テ蓋譚市ヨリ洋鼓江ニ直ル間修水河岸
 ヲ警備セシメ主力ハ火境戴附近ニ集結シア
 リ

(五) 當時河岸警備隊長ノ兵力部署尤ノ如シ

蓋譚市分哨 歩兵一分隊

洋鼓江警備隊 歩兵一小隊

山下王警備隊 中隊主力 MG 一小隊

2. 戰鬥經過ノ概要

(一) 年末年始ニ當リ各隊ニ對シ特ニ警戒ヲ嚴ニ
 スヘキヲ命シ各隊共至嚴ナル警戒ヲ續行中
 正子頃津田部隊方面ニ又口ニ、口頃張公
 渡方向ニ猛烈ナル彼我ノ銃砲聲ヲ聞ク依テ
 大隊ハ諸隊ニ非常配備ヲ命令セリ

四〇二、五〇右地區隊長ヨリ左記要旨ノ電話ニ

接ス

1. 敵兵ハ全面的ニ渡河攻撃ノ兆アリ第三大隊白
植街方面ニハ敵兵約一〇〇出撃シ來タリ目下

交戦中ナリ

2. 第一大隊張公渡方面ニモ敵兵各時ニ潛入シ目

下交戦中ナリ

3. 津田部隊正面ニモ敵出撃シ來リ目下交戦中ナ

リ
右電話ニ基キ直キニ各隊ニ非常警戒配備ニ就

カシメ待機中〇六、〇〇左記歩一五七作命第

三四四號ニ接ス

福井部隊命令

一月一日 五三〇
カ條局 山江

一本一日朝〇三〇〇頃敵ノ一部ハ張公渡附近ヨ

河 84

六 爾餘ノ諸隊ハ概ネ現在地附近ニ於テ出動準備
 五 予備隊タル第五中隊ハ速ニ係局山江ニ集結ス
 四 尤小地區隊ハ其ノ守備ヲ至嚴ナラシメ主力ハ
 三 右中小地區隊ハ速ニ當面ノ敵ヲ攻撃シ捕捉殲
 二 福井部隊ハ敵ヲ攻撃シ修水河ノ線ニ压迫殲滅
 一 進シ來リ我河岸占領部隊ハ之ノ敵ト交戦中ニ
 シテ小松部隊主力ハ目下白檜街方向ニ進撃中
 ナリ
 リ又約三〇〇名ノ敵ハ白檜街渡場附近ヨリ北
 進シ來リ我河岸占領部隊ハ之ノ敵ト交戦中ニ
 シテ小松部隊主力ハ目下白檜街方向ニ進撃中
 ナリ

ヲ完了シ待機スヘシ
特ニ四圍ニ對シ警戒ヲ至嚴ナラシムルヲ要ス
予ハ係局山江ニ在リ

福井部隊長

福井大佐

下達表ノ23ニハ要旨ヲ電話及其ノ他ハ命令

受領者ニ口達筆記セシメ後印刷交付

ハのセ、一〇河岸警備隊ヨリ左記要旨ノ報告ニ

接ス

四、〇頃約四〇ノ敵ハ修水ヲ渡河シ來

タリ蓋譚市分哨當時分哨長萱野軍曹以下一分

隊ヲ包圍攻撃ス同分哨ハ目下コノ敵ト交戦中

十リ中隊ハ報告ニ接スルヤ直午ニ谷ヶ崎少尉

ノ指揮スルニ分隊ヲ急派之ヲ増援セシメタリ

尚一部ノ敵ハ砲兵觀測所及山下至北方沼地附

近ニ侵入セルモノ、如シ

三〇七、一〇九記大隊命令ヲ下達ス

大隊命令

一月一日〇七二〇
於大境戴

一河岸警備隊ノ報告ニヨレハ今曉一部ノ敵ハ修

水河ヲ渡河攻撃シ來リ同隊ハ目下此ノ敵ト交

戰中ニシテ其ノ一部隊ハ既ニ山下至北方沼地

附近ニ侵入セルモノ、如シ

二大隊ハ兵力ヲ大境戴附近ニ集結シ爾後ノ行動

ヲ準備セントス

三第八中隊ハ其ノ一小隊ヲ速カニ山下至北方地

區ニ前進セシメ全地附近ノ敵ヲ索メテ擊攘ス

ハシ

四予ハ大境戴ニ在リ

法

大隊長

市川中佐

右命令ニ基キ第八中隊石井小隊ハ所命ノ地點
15

前進中ハ山下王北方地區ニ於テ敵

ト衝突交戦ス

ハ、ハ、ハニ於ケル敵情尤ノ如シ

口七、四口優勢ナル敵ハ歩兵約一大隊正兵一

小隊衛生隊山下王背面攻撃ヨ企圖シ左地西北

側車道ニ沿ヒ山下王警備隊ヲ攻撃シ來タリシ

モ警備隊ハ豫メ準備セル適切ナル準備隊ノ構

成ニ猛烈ナル攻撃ヲ加ヘ目下激戦中ナリ

蘆譚市ニ部下救援ノタメ急行セシ谷ヶ崎少尉

ハ途中暗黒ニ突シ敵線ヲ縫ヒ急進シ六、四口

蘆譚市ニ到着シ分哨殘兵ヲ併セ指揮シ支撐點

ヲ堅固ニ保持シ大敵ト交戦中ナリ

山口ハ、ニ口協力ノ夕メ張家山北側ニ友軍砲兵陣地ヲ推進ス。今時第七中隊ノ一分隊ヲ掩護ノ夕メ派遣ス。

(4) 山口ハ、ニ口小隊ヲ大境戴一山下王間ノ連絡補給路確保ノ夕メ派遣ス。同小隊ハ山下王北側ニ

於テ敵ト衝突交戦ス。

(4) 山口ハ、ニ口左ノ大隊命令ヲ下達ス。

大隊命令

一月一日 山口ハ、ニ口
於大境戴

敵ハ山下王警備隊ヲ襲撃シ來夕リ目下彼我激

戦中ナリ

二石田中尉ハ部下小隊ヲ率ヒ速ニ當面ノ敵ヲ撃

攘シ山下王警備隊ト連絡スヘシ

三平ハ大境戴ニ在リ

大隊長

市川中佐

下違法

要旨ヲ第七中隊長ニ傳達シタル後口違筆記第17

六中隊ニハ電話ヲ以テ傳達ス

(2) 九、三〇聯隊予備隊タリシ第五中隊一小隊

欠ヲ原所屬ニ復歸セシメラル全時新ニ配屬セ

ラレタル迫撃砲一小隊到着ス依ツテ直千ニ山

下王北方地區ニ潛入セル敵ニ對シ制壓射撃ヲ

實施セラル

(1) 一〇、一〇山下王ニ大燒戴大隊本部間ノ電話

ハ敵ノタメ切斷セラレ不通トナレリ

(1) 一五、三〇九ノ大隊命令ヲ下達ス

一月一日一五三〇
於大燒戴大隊本部

一、我カ猛烈果敢ナル攻撃ニ依リ敵ハ混乱其ノ極

ニ達シ目下西南方ニ退却中ナリ

三 爾後大野石井西隊ハ田口大尉ノ指揮ニ入ラシ

ム

三 西小隊ハ速ニ田口隊ト連絡シ敗敵ヲ捕捉殲滅

スヘシ

四 石田中尉ハ速ニ饅頭山ノ敵ヲ撃攘シ同地ヲ確

保スヘシ之カ爲第六中隊ト密ニ連絡スルヲ要

ス更ニ石田中尉ハ田口隊ト連絡後饅頭山ノ敵

ノ攻撃ヲ開始ス全高地ニハ輕機ヲ有スル約一

中隊ノ敵兵アリテ頑強ニ抵抗スルモ克ク地形

ト火器ノ効果ヲ利用シ一意攻撃ヲ續行シ遂次

敵ノ抵抗ヲ破摧シ以テ戰果ヲ擴張シ一七、四

口全高地ヲ占領ス

四) 斯クテ石田大野石井ノ各隊ハ遂次敵ノ抵抗ヲ

破摧シツ、敵ヲ西南方ニ壓迫シ一三、三、口頃

相前後シテ山下王ニ到着シ山下王警備隊ニ連
絡シ其ノ任務ヲ達成セリ

大隊命令ヲ下達ス
一月一日 八〇〇
於大急 戴

一、爾今中丸小隊ヲ石川中尉ノ指揮ニ入ラシム
二、石川中尉ハ山下王東端分哨ヨリ洋鼓江ニ直ル
三、大野小隊ハ掃蕩終了セハ速ニ中隊ニ復歸スヘシ

河 92

斯クテ概ネ一八〇〇前後各隊ノ適切果敢ナル
攻撃ニヨリ敵ノ企圖ヲ完全ニ破摧シ之ニ殲
滅的打撃ヲ興ヘ修水南岸ニ撃退セリ
大隊命令ヲ下達ス
一月一日 八〇〇
於大急 戴

2660

一第七中隊ハ本夜饅頭山ヲ確保シ修水南岸ノ敵ニ對シ警戒スヘシ
速ニ埤下李庄岡亜張ニ在ル第一大隊ト連絡スヘシ

尚蕙譚市分哨ニ連絡スヘシ
二予ハ大壕戴ニ在リ

大隊長 市川中旅

右命令ニ基キ第七中隊ハ今夜饅頭山ヲ確保スルト共ニ修水南岸ノ敵ニ對シ嚴ニ警戒シ中丸小隊ヲ増援セシタル石川小隊ハ山下王洋毅江間河岸ヲ嚴戒シ夜ヲ徹ス

一月二日

一大隊ハ歩一五七作命第三四三號ニ基キ第一大隊ノ戦斗ニ協力ノ夕メ第七中隊ヲ刘庄附近ニ

敵
山下王襲撃部隊

進出セシメ全地附近ニ於テ敵情ヲ監視セシム
 ルト共ニ敗敵ヲ捕捉セシム
 第一線各隊ヲシテ拂曉ヲ期シテ附近一帯ヲ掃
 蕩セシメタルモ附近ニ敵影ヲ見え
 三十四時十五分頃ニ十数名ノ敵兵山下王西南方
 部落附近ニ潜入シ來リ手榴弾小銃射撃ヲナシ
 タルモ十四時四十分之ヲ撃退ス
 3. 交戦セシ彼我ノ兵力
 我 河岸警備隊

大隊主力

歩兵一中隊
 機関銃一中隊
 歩兵三中隊(一小隊欠)
 機関銃一小隊
 迫撃砲一小隊

94
河

1019

蓋譚市襲撃部隊

歩兵約三〇〇

大隊長ノ指揮スル歩兵約
一大隊(五〇〇)
工兵一小隊
衛生隊一小隊

4. 彼我ノ損害
我 戦死(傷死)
敵 遺棄死体

九(内將校二)
一 二 四(内將校四) 下士官二
二 兵九八

5. 敵ノ団体號
山下王 一一一師 七〇八團 一營
豫メ準備セル担架ニヨリ搬送セシ模様ナリ
其ノ他多大ノ打撃ヲ與ヘタルモ敵ノ死傷者ハ

ハ又

1000

六

固支撐点ヲ構築スルヲ要ス
 スルニ當リテハ四周ニ對シ獨立性ヲ有スル堅
 小數兵力ヲ以テ廣範圍ニ亘ル警備地區ヲ担任

所見
 其ノ他雜品多數
 戰鬥經過別紙要圖具ノ四ノ如シ

命令書別紙ノ如シ

担架

防毒面

十字鋏

拳銃

小銃

齒獲品

蘆譚市

一一八師

三五二旅

七〇四營

23

二四

彈藥箱

二四

水筒

二一

小銃彈

三〇

圓匙

五八

銃劍

一五

一八

一

五〇

三一〇

1001

例
 一月一日敵出撃ニ際シ蘆譚市分哨(長以下一分
 隊ハ我ニ数十倍スル敵ニ包圍攻撃セヨレタル
 モ孤軍奮鬪克ク数時間ニ亘リ支撐點ヲ確保ス
 ルヲ得タリ
 コレ實ニ堅固ナル支撐點ヲ構築シアリタル爲
 ニコノ成果ヲ收ムルヲ得タルモノナリ

97

1022

警備変更ノ為メ下シタル命令

大隊命令

十一月二日一七〇〇
於廿日一七〇〇
庄

一 敵狀 敵ハ既ニ遠ク南方ニ敗走スルモ尚水

修南方四料附近山地ニハ一部陣地ヲ構築シ

ツツアルヲ見ル

師各追撃隊ハ一部ヲ以テ河岸ヲ占領シ主力

ヲ以テ其ノ後方ニ集結シ爾後ノ作戰ヲ準備

ス

聯隊ハ一部ヲ以テ洋鼓江ノ北津市附近修水

河畔ヲ占領シ主力ヲ以テ大龍戴一甘庄一楊

庄以北ノ地区ニ集結シ爾後ノ作戰ヲ準備ス

尚母袋支隊ハ蔡庄南側高地附近ヲ占領シ師

團ノ右側ヲ警戒ス

二 大隊ハ一部ヲ以テ洋鼓江附近ヲ占領シ敵狀

地形ヲ搜索スルト共ニ主力ヲ以テ大龍戴及

1001

七 予ハ甘庄ニ

大隊長代理

田口大尉

26

1002

甘庄附近ニ集結シ爾後ノ作戰ヲ準備セント

三 第七中隊ハ洋鼓江附近ニ位置シ巖ニ河岸ヲ

警戒スルト共ニ極力前面ノ敵狀地形ヲ搜索

スハシ機関銃一小隊之ニ協力ス

四 第二機関銃中隊ヨリ一ケ小队ヲ洋鼓江附近

ニ差出シ第七中隊ノ作戰ニ協力スヘシ

五 第五中隊ハ大龍戴ニ位置シ特ニ西北方ニ対

シ警戒スヘシ

六 爾餘ノ諸隊ハ甘庄ニ位置シ次期作戰ヲ準備

スヘシ

996

1024

下達法
要旨口達後命令受領者ヲ集メ口達
筆記セシム

大隊命令

敵情敵砲兵ノ所在當面ニ於テ判明スルモノ

上月五日ニ於テ大境戰

龍ノ如シ

梅姑菴(道)陳庄(野)嶺芽隣(道)南門壠(野)

敵砲兵ハ各三門ナルモノ如シ

及軍ノ情況第一口六師團ハ白楨街附近以

西ノ地区ヲ警備ス

當師團ハ右ハ第一口六師團ニ連繫シ白楨街

附近ヨリ永修附近ニ亘リ警備ス

聯隊ハ右ハ第一口六師團ニ連繫シ日月湖附

近ヨリ花虬津市西側ニ亘リ警戒第一大隊ヲ

以テ百警戒隊トス

二大隊ハ一部既備ヲ変更シ前任務ヲ續行セシ

トス

三第五中隊(機関銃一分隊配屬)ハ山下五附近ニ

位置シ嚴ニ河岸ヲ警戒スヘシ

四第七中隊(機関銃一分隊配屬)ハ依然現在ノ位

置ニ在リテ現任務ヲ續行スヘシ

五機関銃隊ハ谷一ヶ分隊ヲ第一線兩中隊ニ差

出シ該中隊長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ 101

六第六中隊ヨリ一ヶ小隊(小隊長以下三十名ヲ

明十一月六日正午迄聯隊本部ニ差出シ軍旗

護衛小隊トシテ服務スヘシ

七第一線兩中隊ノ新既備完了ノ時期ハ本十一

月五日一六〇〇トス

八、搜索警戒担任地境尤ノ如シ

第一〇六〇

第 I

第 II

第一四九R

田井家三又路一郭庄一日月湖西端一趙庄一鶴老山
石魏李一宝田張一蔡庄一守前李一魏庄一隣家鋪一
赤坂山一楊家辺一楊庄一虬津市西側一榨下汪庄
一同安嶺一鳳樓山一佛祖山

九、第一線ノ西中隊ノ搜索警戒地境ヲ尤ノ如ク

定ム

大橋殿一山下王東側三又路一六屋江一坂里王家一泰道一陳庄

十、第七中隊既傷ノ機関銃一ヶ小隊ハ其ノ既屬

ヲ解ク

十一、第五中隊ハ東十一月五日一六〇ヨリ明六

日一二〇〇ニ至ル迄一部ヲ張公渡ニ出シ河

岸ヲ警戒スヘシ

明六日正午迄ニ第一大隊ヨリ交代部隊来ル

筈

予ハ大砲載ニ在リ

大隊長代理 田口大尉

下達法 要旨口達後命令受領者ヲ集メ筆記

セシム

追加命令

一 當分ノ間瓦斯班及担架隊ヲ解散ス依テ現所

属ニ復歸スヘシ

二 右ハ戦闘開始ト共ニ再ヒ編成スルニ付隨時

差出シ得ル如ク各隊ニ於テ待期シアルヘシ

三 瓦斯及担架ニ関スル資料ハ夫々医務室及副

官ノ区所ニ依リ適當ノ位置ニ集積シ置クヘシ

シ

一、當面ノ敵狀並ニ師團ノ企圖ハ本日將校會報
 於テ傳達セシ所ノ如シ
 右地區隊ハ爾今佐技旅團長ノ指揮下ニ入り
 一部配備ヲ變更シ現任務ヲ續行ス
 第三大隊主力ハ十六日其ノ任務ヲ西及北地
 區隊ノ一部ニ引継キタル後現所屬ニ復歸シ
 又歩兵第百三聯隊第二大隊ハ石地區隊奥田
 部隊トナリ止盧以東趙庄(白查街西方約四軒
 西南方高地以西ヲ守備スル筈
 第三大隊(二中隊欠)ハ現任務引継後上頂坂附
 近ニ前進シ十九日一六〇道ニ成島隊ノ現
 任務ヲ継承シ石小地區隊トナル筈

於十二月十一日
 二〇二〇

31

104
河~18

1029

成島隊ハ十九日一六。第十一、第十二中隊
 ヲ現所屬ニ復歸シ其任務ヲ第三大隊ニ引継
 キタル後彭庄(盧庄)北方一軒附近ニ位置シ予
 備隊トナル筈
 第一大隊(曲射歩兵砲一小隊、平射歩兵砲一分
 隊既屬)ハ一部ヲ以テ自楂街東方高地附近ノ
 守備ヲ成島隊ト交代シ又將校ハ指揮スル約
 一小隊ヲ護衛小隊トシテ本部ニ差出シ爾余
 ノ諸隊ハ前任務ヲ續行スル筈
 歩兵砲中隊主力ハ元小地区隊ニ隨時協力シ
 得ル準備ニアル筈
 二大隊(第五中隊、元小地区隊トナリ前任務
 ヲ續行セントス
 其ノ守備地境元ノ如シ

中 小 地 区 隊
左 小 地 区 隊
左 地 区 隊

石橋李石橋淨、宝四張各西端
何正、老不身、陳橋、赤發山、ヲ連又ル線
東邊各西端東邊各以南劉家堰ニ到ル向
小龍、蘇、此津、市西端、莫左、 equal 津、中、 equal 南、 equal 約、 equal 八、 equal 泉、 equal 龍、 equal 在、 equal 南、 equal 案、 equal 山
各併、 equal 山、 equal 各、 equal 峯、 equal 頂、 equal 嶺、 equal 田、 equal 助、 equal ヲ、 equal 連、 equal 又、 equal ル、 equal 線

三 第六中隊機関銃一小隊ヲ屬ス第一線主力ヲ
以テ山下王附近ヲ一部ヲ以テ詳致江附近ヲ
堅固ニ占領シ中小地区隊及厄地区隊ト連繫
シ老虬津ヨリ陳砦ニ豆ル修水南岸ノ敵ニ對
シ同河北岸ヲ警備シ敵伏地形ヲ搜索スヘシ
尚敵ノ在候小部隊等ノ同河北岸進出ニ當リ
テハ之ニ徹底的打撃ヲ與フル爲周到ナル準
備ヲナスヘシ
四 第七第八中隊第二機関銃中隊示隊欠自動車
班ハ予備隊トス

第八中隊ハ廿庄ニ第七中隊ハ第一線警備ヲ
 第六中隊ト交代シタル後旧第六中隊ノ位置
 = 宿營スヘシ
 第二機関銃中隊(一小隊欠)自動車班ハ依然現在
 地ニ在ルヘシ
 第一線部隊ノ交代ハ夜暗ヲ利用シ極力行動
 ヲ秘匿シ十三日一六〇〇迄ニ完了スヘシ
 交代ノ細部ニ関シテハ関係中隊相互ニ於テ
 綿密ナル協定ヲ遂クルヲ要ス
 第六第五中隊ハ第一線警備ヲ交代シタル後旧第
 八中隊ノ宿營部落ニ位置シ石地区隊予備隊ト
 ナルヘシ
 戦位完了ハ十三日一六〇〇トス
 七小行李ハ依然現在地ニ位置スヘシ

34

八 大行李ハ現在地ニ位シテ八中隊轉位ノ爲

所要ノ援助ヲ與フヘシ

九 予ハ大龍戴部隊本部ニ在リ

左小地区隊長 市川中佐

下 違法命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

左小地区隊命令

一本三日夜中小地区隊ノ張公渡附近掃蕩戰終

了後大隊ハ第一線ノ警備部署ヲ尤ノ如ク變

更ス

右第一線 第六中隊(219)ヲ附ス

左第一線 第七中隊ノ一小隊(大野小隊)

兩隊ノ警戒搜索地境ハ大龍戴大屋江陳庄ノ

各東端ヲ連スル線トス(線上ハ右中隊ニ屬ス)

河~108

二 第六中隊ハ一日、戦闘ニ鑑ミ中小地区隊ト
 ノ連繫ヲ更ニ一層緊密ナラシメ特ニ右側方
 ノ警戒ヲ嚴ナラシムヘシ
 三 第七中隊ハ第六中隊ト警備ヲ交代シタル後
 速ニ大籠戴ニ歸還シ予備隊トナルヘシ
 四 第六中隊石川小隊ハ大野小隊ト交代後速ニ
 山下王中隊主力ノ位置ニ復歸スヘシ
 五 第六第七中隊長ハ交代実施上ノ細部事項ニ
 ソキ周到ナル協定ヲ遂ケ四日拂曉以前ニ交
 代ヲ完了スル如ク努力スヘシ
 六 新ニ配属セラレタル迫撃砲小隊ハ豫備隊ト
 シテ大籠戴ニ位置スヘシ
 七 予ハ大籠戴ニ在リ

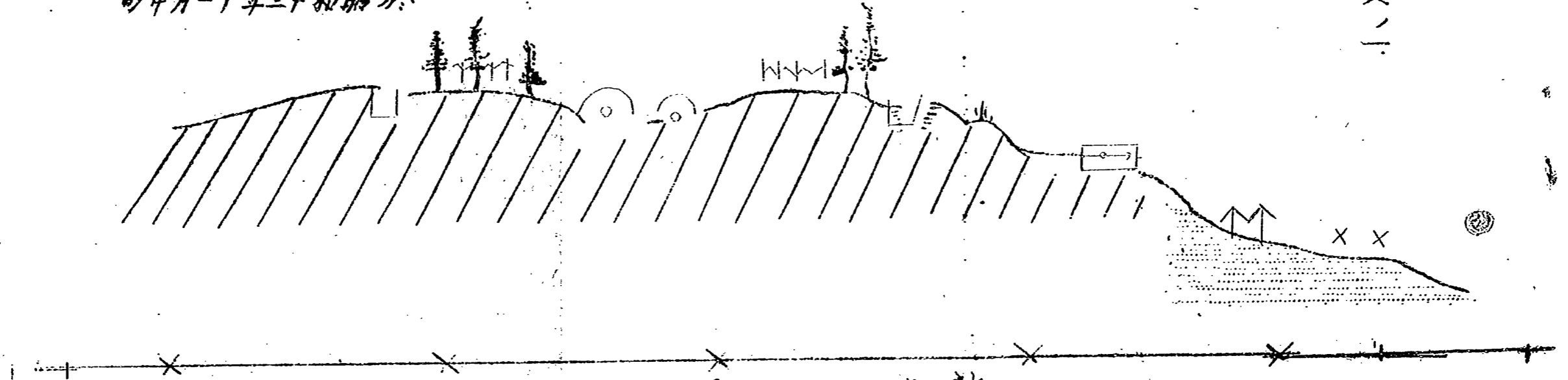
左小地区隊長

市川中佐

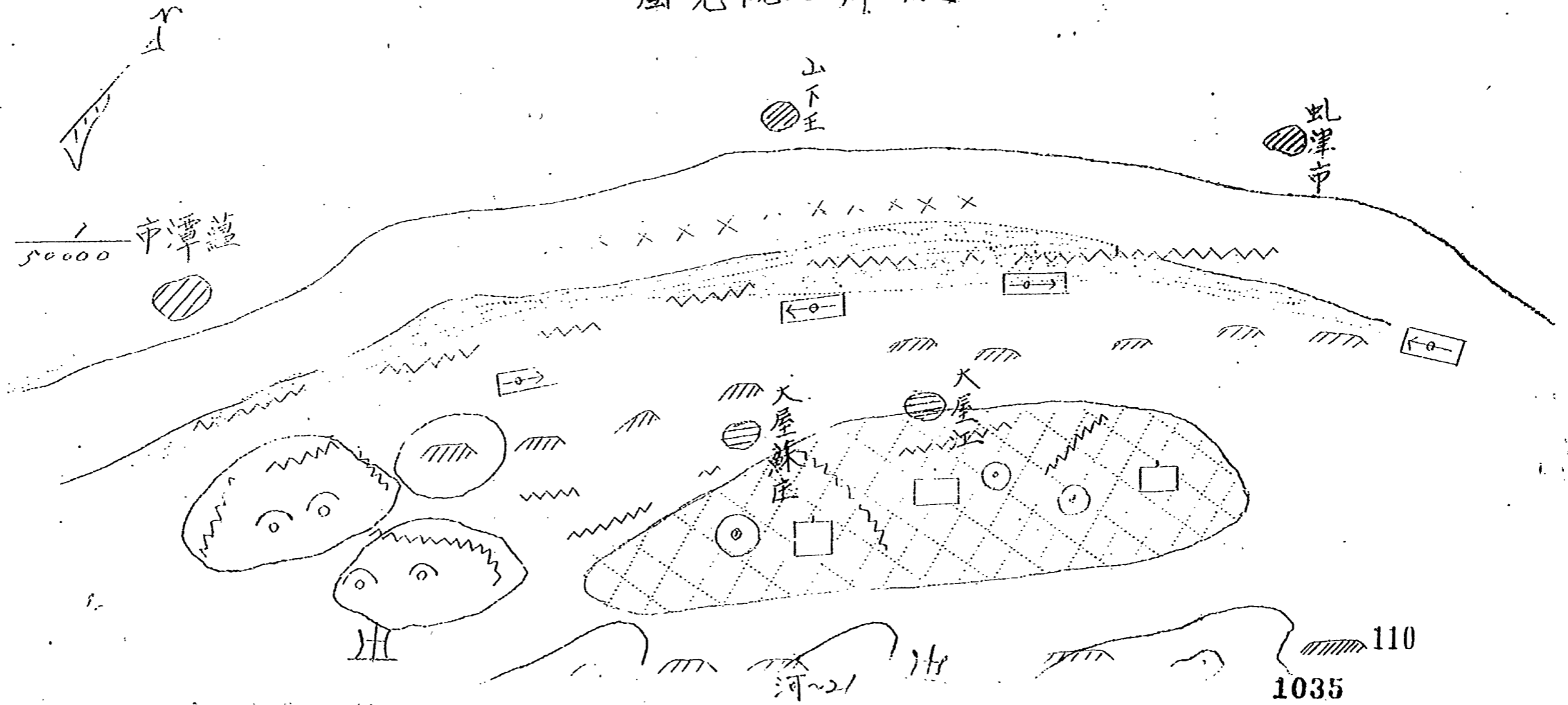
5101

圖要面新地障敵面正王山下
句申ハ二十年二十和船於

其二

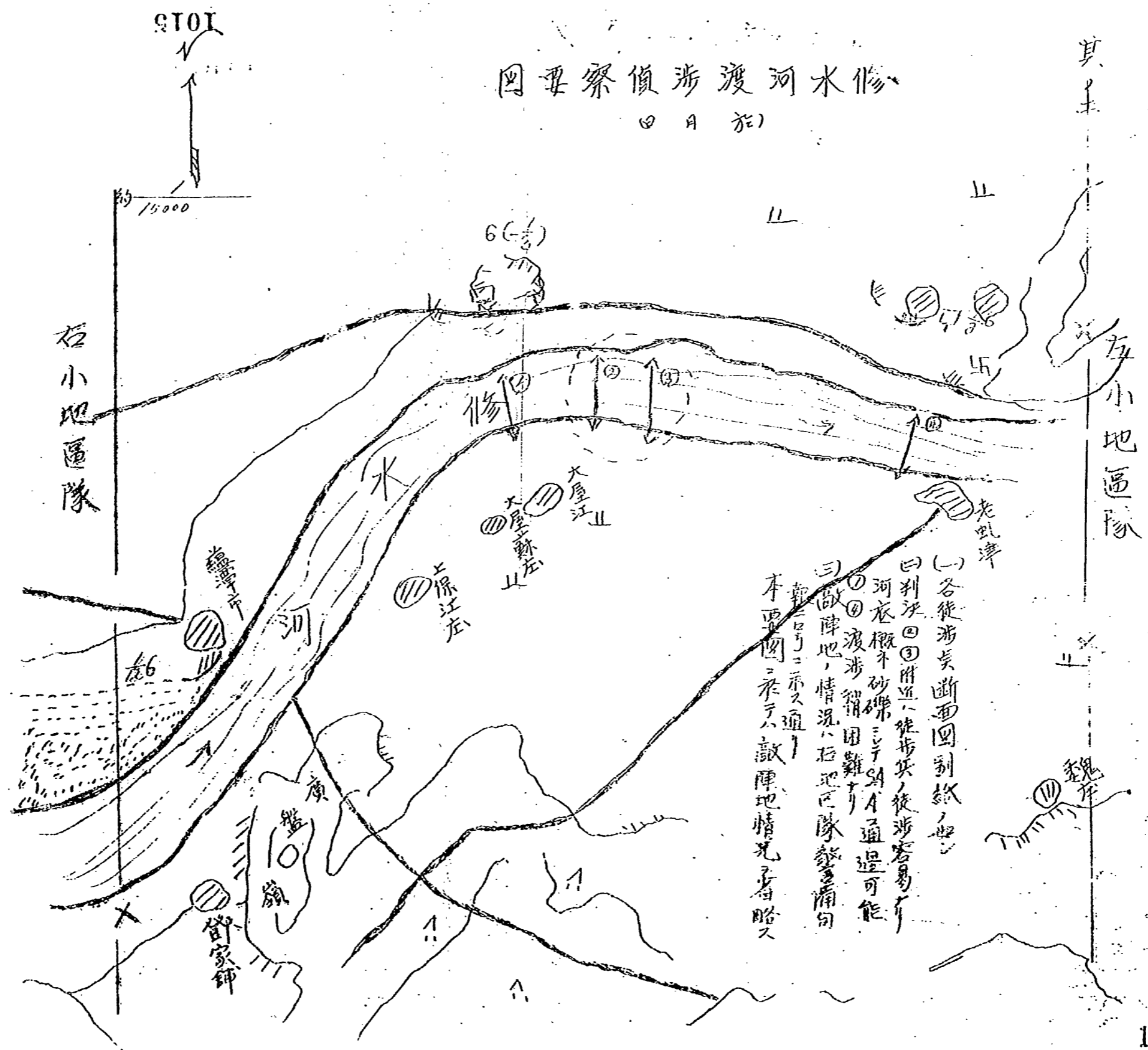


圖見概地障敵



修水河渡渉偵察要圖

日 月 年



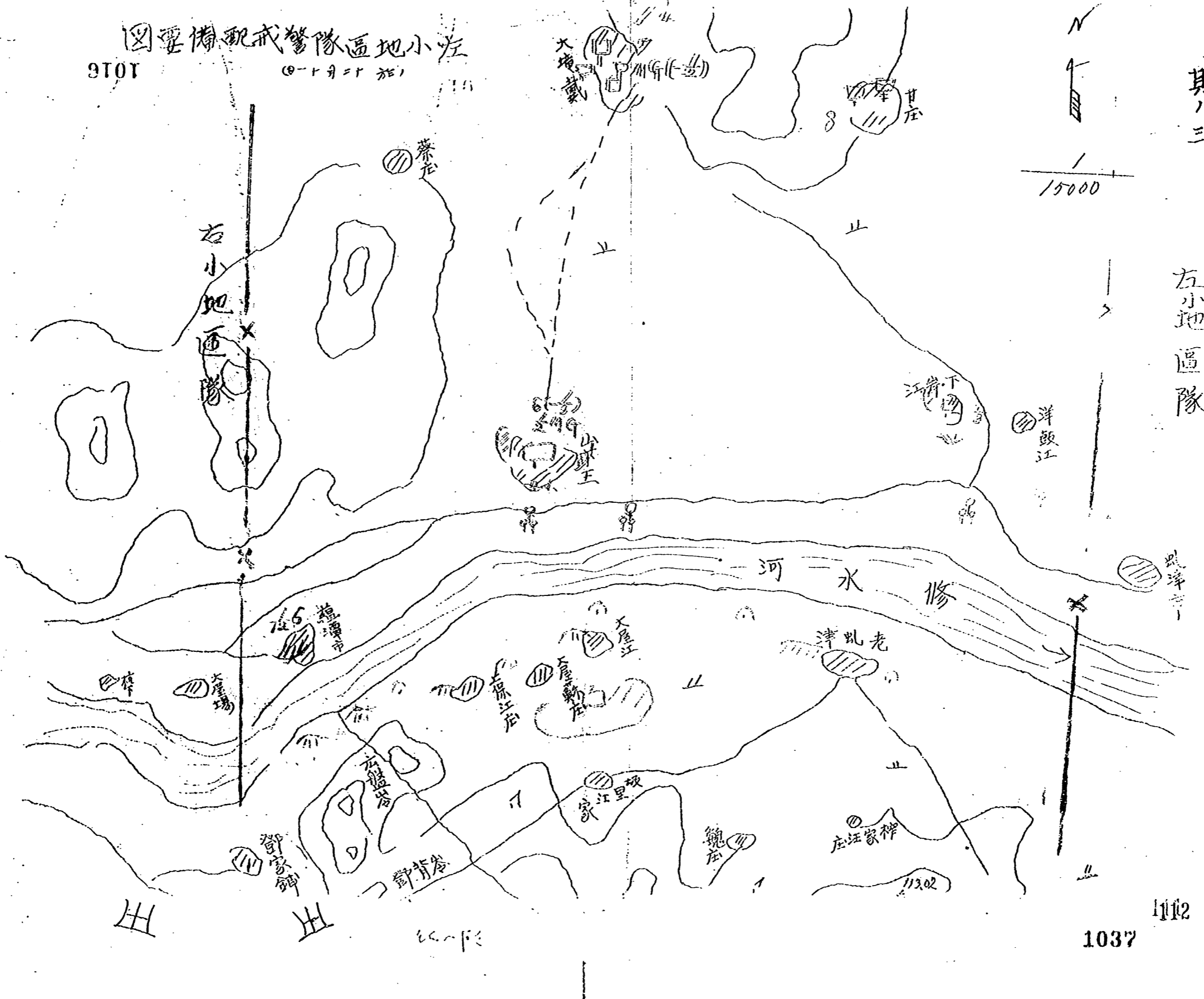
(一) 各從渡處断面圖別致之也
 (二) 判別河底概不砂礫之河底
 (三) 渡渉困難地
 (四) 敵陣地
 本要圖ニ示スル敵陣地情況凡有略ス
 報ニ示スルニ示スル
 本要圖ニ示スル敵陣地情況凡有略ス

河~22

1036

111

左小地區警備配要圖
 9101 (一十月十 年)



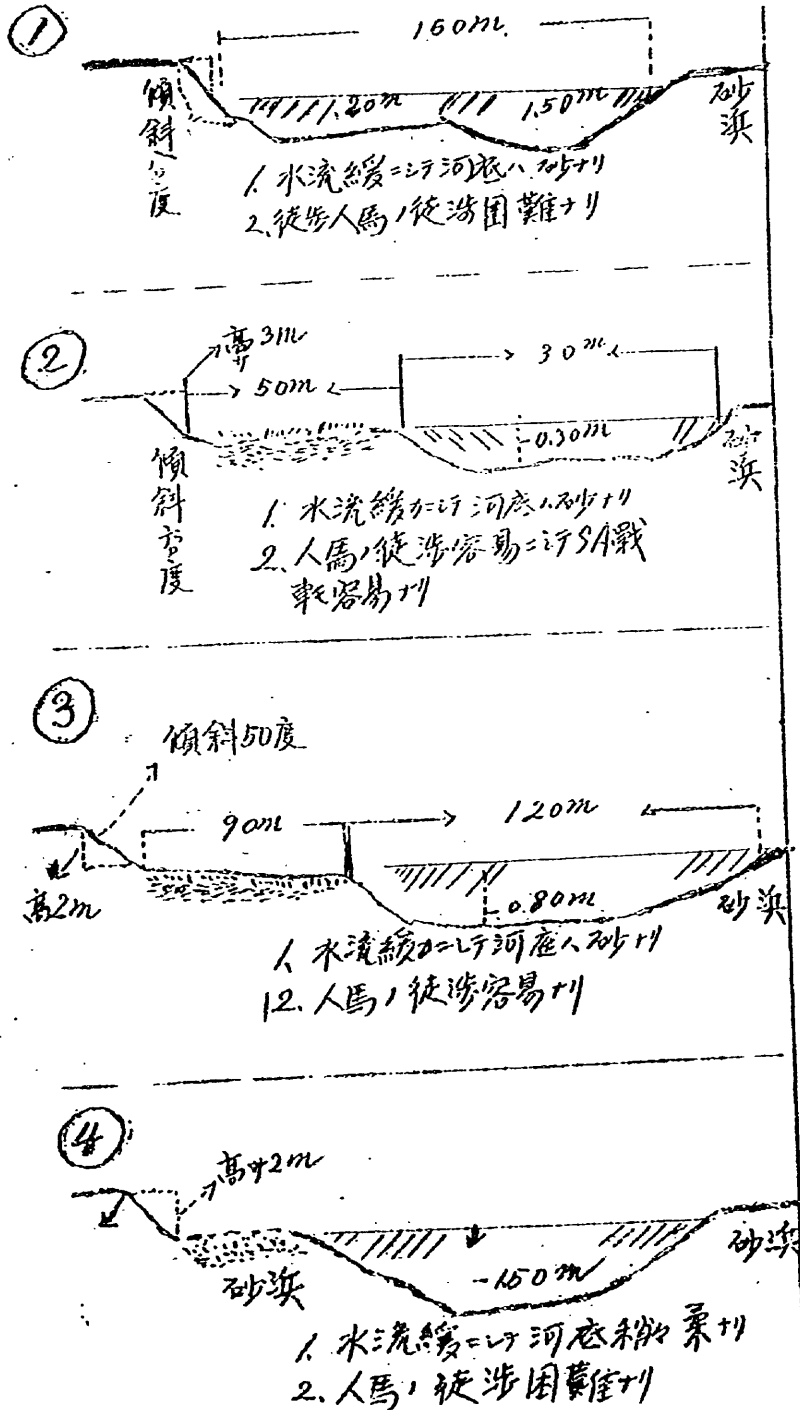
其ノ三

左小地區隊

△TOT

0.01

其
四



修水河渡渉點断面圖

河のく

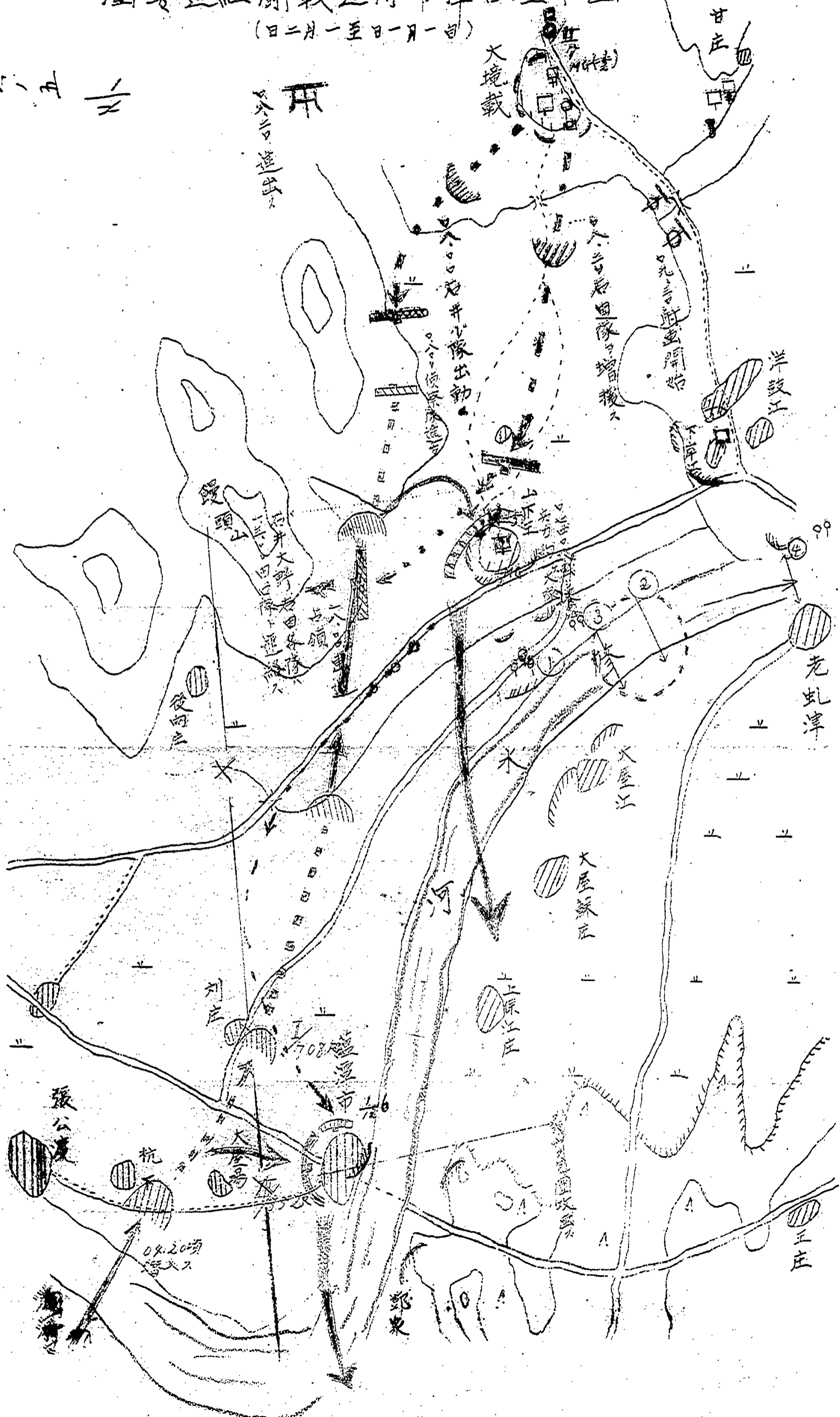
1038

113

山下王蘆潭市附近戰經邊圖

(日二月一至日一月一白)

其五



命

令

陸軍第三八師第十零八團第一營印
二十日午後八時于
本部

一 本營奉 令有獲擊斃敵山下王「河頭戴」之敵之責務。

二 水第一連暨連長率該連從前過河，以一排兵力警戒左前村庄，其餘

兩排由該連長率領迅速沿河岸奪佔山下王後山，佔領後布陣警戒。

三 第一連過河後，第二連迅速即順岸過河，道襲山下王之敵，各連佔領

陣地後，舉火為號。

四 第一連派往左前村庄警戒之一排，警戒後隨營部行動。

五 偵探隊候一三連過河後迅速潛入敵之後方擾亂，并牽制敵之增援，

如有特別情況，速派人報告。

六 工兵排(及一班)過河後速破壞敵之電話綫，交通路，(山下王公路橋梁

等)使敵人失其連絡為目的。

七 衛生隊(三分之二)担架排全部及通訊排兩班隨營部前進。

八 以上各部隊統於明(十八年一月一日)午前一時在本營第三連後空地集會，

九 每官兵各預備白手巾(或白布)一條，過河後，開始攻擊時，即纏於

右臂，天明後速即取下，以識別旗幟。

十 各部隊行進時，務須嚴肅迅速。

十一 每捉敵人一名賞洋壹佰伍拾元，俘獲其他武器文件，照章獎大

賞。

十二 余在小王庄營本部，行進時，余在第三連後跟進。

此令

工兵排 衣

總長 部 治 史



附表第

戦闘詳報第十七號附表

自昭和一二三三
至昭和一二四一三三
步兵第五十七聯隊第二大隊死傷表

備考	合計	隊別					死		傷		生死不明
		機関銃隊	第八中隊	第七中隊	第六中隊	第五中隊	本隊	隊別	死	傷	
	二七	三	五	四	六	七	二	一	三	二	三
	(八七九)	(八)	(一九三)	(二七九)	(一九五)	(二〇三)	(二七)				(三)
	(六五)	(二)									
	六	一		三	二						
	三三	三	一	五	二	三					
	(三)										

附表第二

戦闘詳報第十七號附表

自昭和十三年三月三十一日 步兵第百五十七隊隊員第一大隊鹵獲表

種	類	區	分	頁	數
戰	利	品	戰利品	戰利品	一〇
			戰利品	戰利品	五一
			戰利品	戰利品	三三
			戰利品	戰利品	六六
			戰利品	戰利品	六五
			戰利品	戰利品	七三
			戰利品	戰利品	四〇〇
			戰利品	戰利品	
			戰利品	戰利品	
			戰利品	戰利品	

備考

一 遺棄死体 二百

一 俘虜の團體号 第百十八師

附表第三

戰鬥詳報第十七號附表

備考	合	機筒銃隊	第八中隊	第七中隊	第六中隊	第五中隊	本部	隊		自昭和一二三 至昭和一二三	步兵第百五十七聯隊第二大隊武器彈藥積算表
								號	分		
	計	〇	九八	八五	四六	一三	一〇〇	小銃	彈		
		〇	二〇〇	二五〇	二七〇	二〇〇〇		輕機			
		八五						重機			
								步兵			
								射擊			
								砲			
								重砲			
								小銃			
								輕機			
								重機			
								小銃			
								輕機			
								重機			
								小銃			
								輕機			
								重機			

自昭和十三年五月三日 至昭和十四年二月三日										参加將校人名表 (II)	
職務	階級	氏名	摘要	職務	階級	氏名	摘要	職務	階級	氏名	摘要
大隊長	中尉	市川壽三郎		小隊長	中尉	廣瀬兼親	三三二八退院	中隊長	中尉	田口英男	三三二二退院 大隊長代理
副官	中尉	熱田勝利		中隊長	中尉	飯田正雄		中隊長	中尉	乾保治	
主計	中尉	松崎省策		小隊長	中尉	谷ヶ崎満	四一員傷 入院五戦死	小隊長	中尉	鈴木俊一	三三二二退院 中隊附
軍醫	中尉	山崎清春		中隊長	中尉	石川榮	三三二二退院 中隊附	中隊長	中尉	石田正躬	三三二二退院 中隊附
全	全	石田修		全	中尉	鈴木俊一	三三二二退院 中隊附	中隊長	中尉	乾保治	
中隊長	中尉	三平孝	三三二六入院	全	中尉	鈴木俊一	三三二二退院 中隊附	中隊長	中尉	石田正躬	三三二二退院 中隊附
5 中隊長	中尉	乾保治	中隊長代理	全	中尉	石川榮	三三二二退院 中隊附	中隊長	中尉	石田正躬	三三二二退院 中隊附
小隊長	中尉	中村重雄		中隊長	中尉	石田正躬	三三二二退院 中隊附	中隊長	中尉	石田正躬	三三二二退院 中隊附
全	少尉	江守善三	三三二六退院 中隊附	小隊長	中尉	大野末男		小隊長	中尉	大野末男	
全	少尉	齊藤悳一		全	中尉	根岸武平		全	中尉	根岸武平	
全	少尉	黒山虎次郎	四一員傷 入院五戦死	全	中尉	常木忠代		全	中尉	常木忠代	

備考 ルモトス	小隊長	中隊長	全	全	全	全	全	中隊長	小隊長	中隊長
	少尉	中尉	全	全	全	全	全	中尉	少尉	中尉
摘要欄ニハ戦死戦傷戦病治癒原隊復帰月日等ヲ記入ス			金子忠良	栗原利彦	齊藤廣	中丸清一	師長啓	石井輝夫	石井輝夫	秋葉正
									一二病入院	
										少尉進級

考 備	小 行 李			大 行 李			本 部			区 分						
	清	本	野	曹	軍	聯	郎	三	香	川	市	佐	中	步	長	
<p>一、大隊長步兵中佐市川壽三郎 十一月十四日附 發令</p> <p>二、步兵中尉 廣瀬素親 十一月十日附 發令 十一月八日復歸</p> <p>三、傳令、步上、佐久間寅吉、源山平司、金杉鐵三郎、丸公平、佐野一夫</p> <p>同、皆川 藤一、石橋 孝、野中 徹夫、大賀由雄、真田 巖</p> <p>同、鈴木 武松、大井未治</p> <p>右ノ者十二月二十九日附ヲ以テ、II本部附止ル</p> <p>四、師團自動車班班長並監重兵衛一等兵加藤清一</p>	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
數 員 人	計	兵	下士	將校												
	一	九	一	五												
	二	四	三	名												
	名	名	名	名												

第二大隊本部編成表 修木河以北ノ守備

自昭和二三、三三 至四五、一三二

38

46

28

121

1046

氏名	軍位		支隊	軍位		氏名	軍位		支隊
	軍	位		軍	位		軍	位	
大川省太郎	大	軍	第一中隊	大	軍	江守善三	大	軍	第五中隊
香取太助	香	軍	第一中隊	香	軍	齊藤市	香	軍	第五中隊
飯田馨	飯	軍	第一中隊	飯	軍	...	飯	軍	...
...
...
...
...
...

青△△ 未△△ 赤△△
 戦病入院 戦傷入院

中隊長 中隊長代理 中尉 乾保 兵計 下士官 将校 准

河...

12122

1047

自昭和七年十月一日
昭和七年十月一日
修水河以北守備

步兵第百五十七聯隊第六中隊編成表 昭和十四年一月三日現在調

中隊長 陸軍歩兵大尉 田口英男

中隊長	鈴木俊	大岩政市
副隊長	高田母治	川石武雄
班長	小野原誠	高木大
班長	小野原誠	高木大
班長	小野原誠	高木大
班長	小野原誠	高木大

第一分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第二分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第三分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第四分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第五分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第六分隊	高田金藏	坂巻徳藏

第一分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第二分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第三分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第四分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第五分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第六分隊	高田金藏	坂巻徳藏

第一分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第二分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第三分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第四分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第五分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第六分隊	高田金藏	坂巻徳藏

第一分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第二分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第三分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第四分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第五分隊	高田金藏	坂巻徳藏
第六分隊	高田金藏	坂巻徳藏

中隊長 田口英男 大尉
 第一分隊長 鈴木少尉 中尉
 第二分隊長 高田少尉 中尉
 第三分隊長 高田少尉 中尉
 第四分隊長 高田少尉 中尉
 第五分隊長 高田少尉 中尉
 第六分隊長 高田少尉 中尉

備考 戦死赤丸 戦傷青丸 平病 入院 青三角 赤三角 赤丸 赤丸	隊分四				隊分三				隊分二				隊分一				軍 第 一 隊 第 二 隊 第 三 隊 第 四 隊 第 五 隊 第 六 隊 第 七 隊 第 八 隊 第 九 隊 第 十 隊 第 十一 隊 第 十二 隊 第 十三 隊 第 十四 隊 第 十五 隊 第 十六 隊 第 十七 隊 第 十八 隊 第 十九 隊 第 二十 隊 第 二十一 隊 第 二十二 隊 第 二十三 隊 第 二十四 隊 第 二十五 隊 第 二十六 隊 第 二十七 隊 第 二十八 隊 第 二十九 隊 第 三十 隊 第 三十一 隊 第 三十二 隊 第 三十三 隊 第 三十四 隊 第 三十五 隊 第 三十六 隊 第 三十七 隊 第 三十八 隊 第 三十九 隊 第 四十 隊 第 四十一 隊 第 四十二 隊 第 四十三 隊 第 四十四 隊 第 四十五 隊 第 四十六 隊 第 四十七 隊 第 四十八 隊 第 四十九 隊 第 五十 隊
	上上上上上上上上				上上上上上上上上				上上上上上上上上				上上上上上上上上				
	柳分				柳分				柳分				柳分				
	戸押加米石高森鈴拍鈴向井椎山木				菊野日富高磯岡西火永中脊小				高澤星綿安小小内関市長皆和				金岡秋甲渡森大海高細鈴荒藤植三				
張平藤元井橋谷木谷木井折名岸内				地川暮山梨野田廣野				梨田野貫西川野谷匠口原川泉				子本山斐邊朝野保崎野木井凌草助					
重平嘉芳庄善清幸作久正治砂武				正雄一正繁志正安辨之				正正一桂藤常西林一彦藤榮				秋得春俊大慶倉高廣三勢					
治吉和隆吉吉吉一藏郎男雄行雄雄				一司郎二男義吉藏彌助造吉助治				大夫平郎一大亮吉藏司郎藏雄一治				二二男夫治藏藏吉藏一郎松郎實衛					
上上補補補上上上上上上上上				上補上補補補上上上上上上上上				神補神補神補上上上上上上上上				神補神補神補上上上上上上上上					
分				重柳輕				重柳輕				重柳輕					
柳中渡石海鈴贈紫日細南小高				佐小森長竹林松古川岩田文戸服				藤藤北村西森日鈴吉浪元江實石大				加石邑鈴鶴足竹桐宇内只寺大山					
司山澤邊田光本谷山東山谷川橋				内野池川鳴蓋本川鳥瀬中村部				田川田瀬杉森暮木野川橋波原田				藤川居木泰甚德一太精藤					
新一重好由文定德寺三秀凌				平一辰德木素兼保貞孝春富秀				良武為正典靜燭酒作戸裕誠				炎靜銀次太					
一藏郎祐治郎吉男治慎治雄治衛				即大治治吉六良吉行夫一治旭次雄				堅一平治己孝郎佐吉七松治進郎壽郎				一治夫治郎郎治燈郎郎廣枝政					
神補神補上補上上上上上上上上				上上上上上上上上上上上上上上				上補補補補上上上上上上上上				上上上上上上上上上上上上上上					
重柳分				重柳輕				重柳輕				重柳輕					
山見伊海岩篠河國高那川俣上小				中高星市太椿村田木造加確藤小				渡芝宮相今富細野前橋脚鈴若鏑				大片清江川大板高服池難加湯鈴須					
室五藤原井美正起				池村新太十常信和末專左元定				邊崎内田井澤谷村藤十田木橋秋				岡澤口鳴喜倉艦部田波曾溪木田					
福羽誠春正起				新太十常信和末專左元定				勝周常貞辰武正新輝二酉利寛				政兼義武祀誠三久正春之貞					
柳分				柳分				柳分				柳分					
山見伊海岩篠河國高那川俣上小				中高星市太椿村田木造加確藤小				渡芝宮相今富細野前橋脚鈴若鏑				大片清江川大板高服池難加湯鈴須					
室五藤原井美正起				池村新太十常信和末專左元定				邊崎内田井澤谷村藤十田木橋秋				岡澤口鳴喜倉艦部田波曾溪木田					
福羽誠春正起				新太十常信和末專左元定				勝周常貞辰武正新輝二酉利寛				政兼義武祀誠三久正春之貞					
柳分				柳分				柳分				柳分					
山見伊海岩篠河國高那川俣上小				中高星市太椿村田木造加確藤小				渡芝宮相今富細野前橋脚鈴若鏑				大片清江川大板高服池難加湯鈴須					
室五藤原井美正起				池村新太十常信和末專左元定				邊崎内田井澤谷村藤十田木橋秋				岡澤口鳴喜倉艦部田波曾溪木田					
福羽誠春正起				新太十常信和末專左元定				勝周常貞辰武正新輝二酉利寛				政兼義武祀誠三久正春之貞					

自昭和十三年十月三日
至昭和十四年一月三日
修水河以北準備

秋葉隊編成表

<p>備考 戰場入院 平病入院 入院中 口果院復者</p>	<p>大隊本部 金子真治 石川橋淳</p>	<p>旅団 高橋初雄 高橋宗雄 齊藤進治 齊藤宗治 木島順治</p>	<p>准軍營 吉本喜一 小島龜之助 佐藤龜之助 海老原三雄 宇野三雄 森野三雄 野口三雄 平岡三雄 加藤三雄 佐藤三雄 早川三雄 石川三雄 山崎三雄 白川三雄 三浦三雄 川崎三雄</p>	<p>指揮機関 隊長 步兵中尉 第一小隊長 第二小隊長 第三小隊長</p>
<p>第四分隊</p>	<p>第三分隊</p>	<p>第二分隊</p>	<p>第一分隊</p>	<p>長歩少尉 第一小隊長 第二小隊長 第三小隊長</p>
<p>平銀金小鶴大... 島塚高宮天藤曾木田塚澤藤翁若... 喜一正七作新... 要俊長司秀次之治晋部治松</p>	<p>野森在風小如渡石武田宮椎内山山... 村親川藤且井田家名田本... 辰 橋正松義三義白炎... 孫營津治美進輝即藏得推入交助</p>	<p>大木竹渡能清岩植前小川大岡... 塚村津木水頭草川高野田... 該長之金 益金上香 勝香... 即助夫茂即治即治</p>	<p>小齊高五白富八度佐宇伊林深小川... 関藤橋常正 正 斎 藤 志 政 保 清 夫... 正良正次 三雄即香雄清二雄力治治夫吉夫</p>	<p>長歩少尉 第一小隊長 第二小隊長 第三小隊長</p>
<p>米高藤藤大... 崎田生井子... 喜喜政秀豊... 作柳印吉一進部利門一作即夫藏</p>	<p>松志香高長大行猶林三角飯神... 本関取木田沼木達 橋田並崎... 常 武之木正 榮木 真茂孝武喜... 雄 野 雄助即雄个郎吉吉德治</p>	<p>塚日渡鉦北田長松川小市保正大... 本喜起木村中芥崎島倉原田木木... 松新新正正郭佐 頻庄政太角... 即即衛良吉个長守吉一治即藏深</p>	<p>金新青剛北入小白大柴早大丸高松... 子谷正水根谷島林井塚崎 川 知 文... 貞正期輝 元 亮 三 場 助 弘 治 身 吉... 向雄三郎吉郎真正正郎場助弘治身吉</p>	<p>長歩少尉 第一小隊長 第二小隊長 第三小隊長</p>
<p>石金林米場村小... 橋子宮井川山畑鎌嶋川山山木... 秀三幸七作更慶 武 喜 喜... 淳天助助藏一節殊昇一却清治</p>	<p>小大金露尾井栗井石渡泉嶽土不島... 川坂子崎出上田上毛目貝井村田... 芳 淳昇德 芳 輝 美 正 黄 多 梅 利... 藏即三新即三 橋 雄 治 吉 廣 吉 雄 中</p>	<p>田吉平多東小渡高冲山富... 中野賢田平出屋村口川野... 太誠龍 文全 利 岩 國 貞 侯... 即司一 浩 環 藏 成 香 松 治 德</p>	<p>木安奴水伊大遊加... 林田賀野藤少仙藤滝田出内備... 光展時正 貞 重 德 子 愛 正 夫... 次夫良美武博治司治丸治米助</p>	<p>長歩少尉 第一小隊長 第二小隊長 第三小隊長</p>

清水以北ノ守備

自昭和一九二一年
至昭和一九二六年

編成表

清水隊機關銃中隊

部	本	第一	第二	第三
齋藤廣 原坂日藏	齋藤廣 原坂日藏	齋藤廣 原坂日藏	齋藤廣 原坂日藏	齋藤廣 原坂日藏
上 上 上	上 上 上	上 上 上	上 上 上	上 上 上
久古柳三 吉田源太郎 柳井一雄	久古柳三 吉田源太郎 柳井一雄	久古柳三 吉田源太郎 柳井一雄	久古柳三 吉田源太郎 柳井一雄	久古柳三 吉田源太郎 柳井一雄
藤本三藏 源井清 藤井清	藤本三藏 源井清 藤井清	藤本三藏 源井清 藤井清	藤本三藏 源井清 藤井清	藤本三藏 源井清 藤井清
上 上 上	上 上 上	上 上 上	上 上 上	上 上 上
野中俊男 平野新 甲原三郎 飯田秋藏 仲村芳松 木内定吉 半山豊吉 高野眞治	野中俊男 平野新 甲原三郎 飯田秋藏 仲村芳松 木内定吉 半山豊吉 高野眞治	野中俊男 平野新 甲原三郎 飯田秋藏 仲村芳松 木内定吉 半山豊吉 高野眞治	野中俊男 平野新 甲原三郎 飯田秋藏 仲村芳松 木内定吉 半山豊吉 高野眞治	野中俊男 平野新 甲原三郎 飯田秋藏 仲村芳松 木内定吉 半山豊吉 高野眞治
上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上
藤中 正巳 田中正巳 藤井 芳雄 松丸 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄	藤中 正巳 田中正巳 藤井 芳雄 松丸 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄	藤中 正巳 田中正巳 藤井 芳雄 松丸 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄	藤中 正巳 田中正巳 藤井 芳雄 松丸 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄	藤中 正巳 田中正巳 藤井 芳雄 松丸 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄 山崎 芳雄
上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上
金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史	金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史	金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史	金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史	金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史 金子正史
上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上
河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣
上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上
河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣
上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上
河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣
上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上
河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣	河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣 河野正臣
上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上	上 上 上 上 上 上 上 上